

何事もトップの人から学ぶことが

ステップアップの秘訣!

医療法人財団康生会 武田病院 脳神経外科 部長

西原 毅氏



穏やかで、やさしい雰囲気の漂う西原氏。けれど外見とは異なり、若い頃からチャレンジャーだったと語る。自らを「ステップアップする」コツは、何事もトップの人から学ぶことだという。

キーワード……ステップアップ

——そもそも「脳」に興味を持ったのはどんな理由からですか。
脳は非常に緻密に組み立てられており、診察も推理小説の犯人探しのような部分があって、奥が深く、面白い分野だと思っていました。学生時代、故・牧豊先生（まき・ゆたか、筑波大学名誉教授）に出会ったことが一層興味を持つきっかけとなりました。牧先生には失礼ですが、先生というより「酒場の友」のような存在で、飲むたびに感化され、何度も「脳外科がいいよ」と誘われました。段々と、自分で診断して、自分で治療をする脳神経外科医に魅力を感じるようになりました。

卒業後、筑波大学の医局に入られなかつたようですが、私は筑波大学医学専門学群の2期生です。当時筑波大では、キャンパス整備が続いていた頃で、40名ぐらしあが受け入れ枠がなかつた記憶があります。ならば、自分のことを誰一人知らない他大学で、自分の力を発揮したいのです。

——なぜ、1年後には京都大学に行かれただのですか。
救急医療には、なんともいえない物足りなさがありました。救命処置をして、落ち着いたら各科に続きを希望するので、患者さんと深く関わることがあります。卒業したばかりなのに、自分は何でもできると思っていました。ところが何もできません。ショックでしたが、その1年間は非常に勉強となりました。

——その後、静岡県立総合病院、京都大学大学院と進まれますね。
静岡県立総合病院に初めて脳神経外科を設置することになりましたとき、研修医として赴任することになりました。近藤明恵先生（現・医療法人春秋会城山病院）が中心となって開設されたのですが、脳神経外科における臨床を厳しく教えていただきました。静岡での時間はあつという間でした。

試そうと思いました。昔から負けず嫌いと考りました。昔から負けず嫌いで、一番が好き。出会う人もできれば一番の人に会いたいと思つてきました。京都大学脳神経外科、初代教授の半田肇先生（現・京都大学名誉教授、医療法人医仁会武田総合病院院長）の教科書を読ませていたので、一度から派遣された先が兵庫県立西宮病院救急部でした。若かったこともありますが、卒業したばかりになりましたが、卒業したばかりになりました。ところが何でもできません。そこで大阪大学に行くことになりました。

そこから派遣された先が兵庫県立西宮病院救急部でした。若かったことはあります。そこで、本物の脳神経外科の世界へ早く進路を切り替えた方がよいと思うようになりました。

——なぜ、1年後には京都大学に行かれただのですか。

医療法人財団康生会 武田病院 脳神経外科 部長 西原 毅氏

京大の脳神経外科教室では研修医は大学院へ進学することを勧められます。研究は結果の分析方法を知るだけでなく、目的意識の持ち方やモチベーションを維持する方法を身につけるにはよく、頭の構造改革にながります。

研究テーマは脳腫瘍の遺伝子治療にしました。手術すべてが治らない現実があり、どうやつたら治るか疑問を持っていたことがきっかけです。特に悪性腫瘍は完全に切除できない場合もあり、ならば、残された腫瘍を殺すスーパーマンのような細胞を遺伝子に組み入れて作れないかと考えました。リンパ球に遺伝子を組み入れ、性格を変え、攻撃型のリンパ球を作りました。スーパーマンにはなりませんでしたが、空手の1級ぐらいになりました。腫瘍に対する遺伝子治療のさきがけにはなつたと思っています。

——大学院修了後、静岡、アメリカ留学と続きます。
大学院は修了したものの、研究に対する興味や意思は消えませんでした。そこでアメリカ留学を考えました。ただ、その前に一度臨床に戻つて、専門医の認定をとつておいた方がよいと考え、静岡県立総合病院へ赴任し、日本脳神経外科学会の認定医を取得しました。この期間に留学先の選定を進めました。資金繰りの問題がありましたから、給料のあるところを探

したのです。ただ、数が限られており、いくつか受験してオハイオ州立大学に受け入れてもらえることになりました。

——アメリカ生活はいかがでしたか。
出発直前に結婚したこともあり、アメリカで寂しい思いをすることはありませんでした。

私は家内から学んだことがあるんですよ。彼女はどこに行つても誰かに話しかけるのです。バスに乗つても、旅先でも。私も見習つて話しかけることにしました。オハイオにはホンダ、ソニーの現地法人があり、習つたことを「実践」すると、邦人のネットワークが広がりました。ホンダやソニーの皆さんにはいろいろと助けてもらいました。

アメリカでも脳腫瘍の遺伝子治療を研究テーマにしました。ところが困つたことに、給料がもらえると聞いていたのに、グラント（奨学生金）が当たらないと支給されないというのがグラントが一番厳しいのですが、滞在予定の1年半にわたり、研究計画書を10回提出し、最後の研究テーマが採用されました。

一方N.I.H.に、当時一躍有名になつたローゼン・バーグ博士があり、

30代になると、実際に執刀する機会も出てくるのですが、苦手とする部分もわかつてきます。そこで、また「見る」のです。他の医師の手術を見ることで、知識やイメージの蓄積を図るのです。

——あなたは「気球パイロット免許を取得して、空を飛びたい」とのこと。

——医師がステップアップしていく過程で大切なことは何でしょうか。
私はきつちりと目標を立てて物事にあたるタイプではありませんが、大手に研究室を開いたマイケル・ロッソ博士が人材を求めていると紹介され、最後の1年間お世話をになることになりました。

——医師がステップアップしていく過程で大切なことは何でしょうか。
私はきつちりと目標を立てて物事にあたるタイプではありませんが、大学に研究室を開いたマイケル・ロッソ博士が人材を求めていると紹介され、最後の1年間お世話をなることになりました。

——医師として持ち続けねばならない意識は、どんなものでしょうか。

私の実家は仕出し料理屋です。両親はお客様に喜んでもらおうと熱心に立ちました。

——ありがとうございました。

構成・島津 英昌

アメリカでも有名といわれる施設参った研究テーマでは採用できないといわれたのですが、ピッツバーグ大学に研究室を開いたマイケル・ロッソ博士が人材を求めていると紹介され、最後の1年間お世話をなることになりました。

——医師として持ち続けねばならない意識は、どんなものでしょうか。

私の実家は仕出し料理屋です。両親はお客様に喜んでもらおうと熱心に立ちました。

——ありがとうございました。

構成・島津 英昌

訪問してみると残念ながら自分が持参した研究テーマでは採用できないといわれたのですが、ピッツバーグ大学に研究室を開いたマイケル・ロッソ博士が人材を求めていると紹介され、最後の1年間お世話をなることになりました。

——医師として持ち続けねばならない意識は、どんなものでしょうか。

私の実家は仕出し料理屋です。両親はお客様に喜んでもらおうと熱心に立ちました。

——ありがとうございました。

構成・島津 英昌

訪問してみると残念ながら自分が持参した研究テーマでは採用できないといわれたのですが、ピッツバーグ大学に研究室を開いたマイケル・ロッソ博士が人材を求めていると紹介され、最後の1年間お世話をなることになりました。